

第 2 回 3 ダムサブWG 会議 (2004.9.11 開催) 結果報告		2004.9.16 庶務発信
開催日時 :	2004 年 9 月 11 日 (土) 13 : 15 ~ 17 : 00	
場 所 :	ピアザ淡海 3 階 大会議室	
参加者数 :	委員 16 名、河川管理者 (指定席) 10 名、一般傍聴者 (マスコミ含む) 40 名	
1 審議の概要	<p>天ヶ瀬ダム再開発に伴う「塔の島」地区の河川整備について</p> <p>河川管理者より資料 1-1 の説明が行われた後、意見交換が行われた。主な意見は以下の通り(例示)、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「塔の島」地区の河川整備では、1,500m³/s が検討の前提となっているが、1 つの検討結果を示さただけでは、委員会として議論ができない。どの程度の河道掘削が最適かについて検討するために、例えば、放流流が 1,000m³/s ならどの程度の河道掘削になるのかといった検討結果を示さなければならない。 1,500m³/s 以外の場合に琵琶湖沿岸の浸水被害がどの程度軽減されるのか、もっとも効率の良い放流量を検討した結果、現況の放流量から 1,500m³/s までの範囲であれば、整備すればするほど、効果があるとの結果が出て、歴史的経緯や政治的背景から 1,500m³/s が必要最低の放流量ではないかということで検討を進めた。もちろん、だからといって、1,500m³/s でなければならないということではないので、1,500m³/s 以外の検討も行いたい(河川管理者)、 ・亀石のフォトモンタージュは、それぞれ視角が異なっているので、統一すべきだ。 今後、さまざまな角度からのフォトモンタージュを示したい(河川管理者)、 ・塔の島地区をどのように 0.8m 掘削するのか。河床の横断面図を示す必要がある。 資料が見難いので、あらためて資料を提供したい。河川の横断系等まで精査できていない面もあるため、今後、きちんと示したい(河川管理者)、 <p>高時川の瀬切れのメカニズム</p> <p>河川管理者より資料 1-2 の説明が行われた後、意見交換が行われた。主な意見は以下の通り(例示)、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・河川管理者の説明によれば、高時川頭首工が完成する以前の瀬切れについてのデータが不明とのことだが、地元の方に聞けば良いのではないか。 頭首工と瀬切れ増加の関係を分析するためには、「何月何日にどこに瀬切れがあったか」までのデータが必要なため、6 年間のデータを用いて説明した。住民の方の話も伺ったが、客観的・定量的なデータが得られるまでには至っていない。(河川管理者)、 <p>丹生ダム貯水池および高時川の水質予測</p> <p>河川管理者より資料 1-3 の説明が行われた後、意見交換が行われた。主な意見は以下の通り(例示)、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本当に、放流 S S (懸濁物質) による問題は起きないのか。検討結果には多少疑問を覚える。 検討対象となった過去 11 年間に大きな出水がなかったことも今回の結果に影響しているので、過去まで遡って検討を行い、どの程度の出水があればどの程度の濁水になるのか、調査したい。また、今回は、選択取水設備を使用するという条件で検討した(河川管理者)、 ・丹生ダムの富栄養化が琵琶湖に与える影響について、どのような検討を行っているのか。 現在のところ、丹生ダムではアオコが発生する可能性は低いと考えられているが、丹生ダムの水を琵琶湖へ放流すると琵琶湖にどのような影響を与えるかといったことも視野に入れて検討している(河川管理者)、 ・渇水時に丹生ダム 1 箇所から琵琶湖に水が補給された場合、琵琶湖の水質や環境等はどうなるの 	

か。河川管理者には、是非、検討してほしい。平成6年の渇水時、河川からの流入がなくなったため、琵琶湖の水質は非常によくなった。特に水のきれいな北湖に、丹生ダムから一気に水が補給されるとかなりの影響が出るのではないか。

現在のところ、そこまでの検討はできていない。渇水時に丹生ダムからの補給水が琵琶湖に流入する水の全体に占める割合も含めて、調べてみたい（河川管理者）。

「琵琶湖の水位低下抑制」と「異常渇水時の緊急水の補給」

河川管理者より資料 1-4-1、1-4-2 の説明が行われた後、意見交換が行われた。主な意見は以下の通り（例示）。

- ・検討の条件設定に疑問を感じる。例えば、もっと早い時期から取水制限を開始すればどうなるのか、検討してみるべきだろう。また、丹生ダムができれば結果はどのように変わるのか。

利水者の協力が得られれば、より早い時期から取水制限を行うことができる。また、丹生ダムの全容量を補給水として使えるかどうかかわからないが、できるだけ対応する（河川管理者）。

- ・琵琶湖の水位操作そのものを改善していかなければならないだろう。また、大阪府営水道の水需要予測が下方修正されつつあり、これも考慮しておく必要がある。

- ・丹生ダムの1億 m³を補給水として使うことができれば、琵琶湖の水位が約10cm回復できるとのことだが、10cmで琵琶湖の環境がどれほど改善できるのか、疑問だ。

取水制限日数や制限率が減少するといった社会的な効果は期待できる（河川管理者）。

2 一般傍聴者からの意見聴取

一般傍聴者3名より発言があった。主な意見は以下の通り（例示）。

- ・河川管理者が実施している住民説明会で出た意見がダムWGには反映されていない。地元の意見を踏まえた議論してほしい。委員会と地元住民との対話討論会の開催を検討してほしい。

- ・ダムWGは、河川管理者の検討結果に対して、バックデータまで求めていくべきだ。また、委員の検討に必要なデータを河川管理者に要求していかなければならない。

- ・塔の島地区の1,500m³/s そのものの必要性について、もっと議論を深めてほしい。琵琶湖沿岸の浸水被害が約7戸なら、かさ上げによる対応の方がよい。また、1,500m³/s を長期間放流するための堤防補強に必要なコストを明らかにしてほしい。

- ・塔の島地区のフォトモンタージュについては、地元の住民説明会で不十分であるとの意見が出た。影響のある全ての場所でフォトモンタージュを作成するべきだ。

- ・参考資料1に、大阪府営水道の水需要予測の下方修正について意見が出されている。委員会は、この件について、府営水道と大阪市水道局を招いて説明をしてもらった方がよいと思う。

- ・高時川の瀬切れは頭首工の運用ルールを決めておかなかったことが原因であり、人為的な問題だ。これをダムで解消するのは、農業用水のためにダムから水を補給するのと同じことだ。

3 今後のスケジュールについて

庶務より今後のダムWGのスケジュールについて説明が行われた後、今本ダムWGリーダーより「ダムWGとサブWGを同時開催した方がよいので、今後のスケジュールについては変更となる可能性がある」との説明が行われた。

このお知らせは委員の皆様には主な決定事項などの会議の結果を迅速にお知らせするため、庶務から発信させていただくものです。